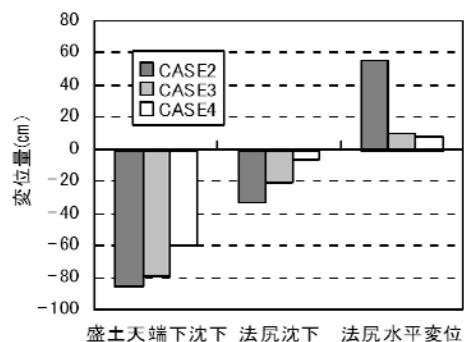


## 遠心実験結果

### 改良条件

- ・浅層改良盤の深度は、1m。
- ・深層改良部の深度は、9m。
- ・改良体の強度は、 $q_u = 1,000 \text{ kN/m}^2$ 。
- ・改良率は、盛土底面積に対して約8%。



・対策後の円弧すべり検討結果は、全ケースで  $F_s \geq 1.00$

	無対策 CASE-1	杭式配置 CASE-2	帯状配置 CASE-3	筒状配置 CASE-4
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概要図</li> </ul>			
破壊状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛土載荷前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浅層改良盤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浅層改良盤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浅層改良盤</li> </ul>

6~7m盛土した時点で円弧すべりによる破壊が生じた。

- ・盛土下浅層部の平均的な沈下は約80cmだった。
- ・浅層改良盤のクラックは、盛土縦断方向に入っており、変形や沈下が進行しやすい危険な方向に入っていた。
- ・深層改良部について、多数の柱状改良体にクラックが入り、かつ、倒れも大きかった。

- ・盛土下浅層部の平均的な沈下は約80cmだった。
- ・浅層改良盤のクラックは、盛土横断方向に入り、壁間隔が大きい影響が出ていると考えられるが、変形に関してはALICCより安定していた。
- ・浅層改良部の壁にも縦クラックが数箇所入っていたが、クラック幅は大きくなく、不安定な形状変化とはならなかった。

- ・盛土下浅層部の平均的な沈下は約60cmだった。
- ・浅層改良盤のクラックは、深層改良部の周囲にのみ発生し、特に筒の細い部分に発生した。筒の内部にクラックは発生しておらず、拘束効果による影響を示している。
- ・深層改良部にはまったくといっていいほどクラックが生じておらず、これも、拘束効果の結果と考えられる。